

ほっこりとん汁

古賀 遼こが りょう

ほくの家の近くには、おじいちゃんとおばあちゃんの住む家がある。十四じょうのたたみの部屋がある大きな家だ。ほくはそこで一人のんびり過ごすのが大好きだ。いつも何かとガミガミうるさいお母さん、機嫌が悪くなると泣き叫ぶ弟、少しだけ気の合う妹の四人で暮らすアパートからはなれない時もある。

おばあちゃんの家に行きたいとお願いと、いつもおばあちゃん

は「いいよ、来なさい。何が食べたいね。」

と言ってくれる。断られたことは一度もない。

ほくはおばあちゃんを作ってくれるとん汁が大好きでたまらない。だって、これでもかと言わんばかりに野菜が入っているからだ。ほくも調理実習でみそ汁を作ったことがあるが、そんなのは比べものにならないほどの野菜が入っている。とにかく野菜を食べてほしいというおばあちゃんの強い思いを感じる。白菜、水菜、人参、ごぼう、白ねぎ、さといも、しいたけ、えのき、こんにゃく。さといもがさつまいもに変わる時もある。食べてしまうのは一しゅんだけど、この具だく山のとん汁を作るのにいったいどれだけの時間がかかったのだろう。ほくはいつも思う。ぶるんぶるんのこんにゃくをこんなに細く切るのに、誤って手を切ってしまったのだろうか。よく見る

と、ほくの大好きなシヨウガは、すりおろしたものと包丁で消しゴムのカスクらいに細かく切つたもの、二種類入っている。さらにその二種類のシヨウガは、小皿に入れてほくに出してくれる。「追いがつお」ならぬ「追いシヨウガ」だ。おばあちゃんの料理は何かと芸が細かい。ほくが「おばあちゃん、食堂できるね。」

と言つても、おばあちゃんは声を出して笑うだけ。ほくは本気でそう思っている。それだけ美味しい。

お母さんは出されたものを食べ終えてからじやないと、おかわりは絶対にくれない。それがいつも不満でしようがなかった。だけどおばあちゃんはちがう。いつでもおわんいっぱいにおかわりをくれる。三杯目のおかわりは、さすがに自分でもお腹がタプタブになるな、と迷いがあるけれど、おばあちゃんには変わらぬ笑顔でついてくれる。ほくも自然と笑顔になる。とん汁が美味しいからなのか、おばあちゃんの優しさがうれしいからなのか、おばあちゃんににまみり笑顔になってしまう。そんなほくを見て、おばあちゃんはさらに笑顔になる。

帰る時もおばあちゃん、

「また、いつでもおいでね。」

と笑顔で送り出してくれる。おばあちゃんいつも本当にありがとう。おばあちゃん、またとん汁を食べに行くよ。